



## 実践力向上講座の取組の様子

今年度の実践力向上講座の取組も2月20日の終了まであと少しとなりました。教員をめざす皆さんのために、今年度も県内の数多くの学校や教育事務所に御協力いただきました。様々な子どもたちや先生方と出会う中で、実際に教育現場に行ってみて初めて分かったことや気付いたこともあったことと思います。受講者の皆さんには、こうした現場での貴重な経験や学びを今後にかかしていただきたいと思います。

かながわティーチャーズカレッジ事務局の所員も、取組先を訪問し、受講者の皆さんの様子を拝見しました。今年度からの新規取組校や所員が初めて訪問した学校の中から、いくつか紹介します。

### 海老名市立柏ヶ谷小学校

柏ヶ谷小学校では、授業内補助的指導体験が実施され、11月5日（月）に1名の受講者が参加しました。

2時間目は特別支援級に授業補助として参加し、支援級の児童に丁寧に対応していました。3時間目の2年生の音楽では、合奏練習の補助として参加し、児童に寄り添い一人ひとりに合わせて対応している様子が見られました。また当日は、スクールライフサポーターとして参加していた受講者が3年生の算数の授業補助を行っている様子も見学しました。

教頭先生からは、「継続して取り組んでいることで、児童への対応が良くなっています。」と心強い言葉をいただきました。受講者は、児童一人ひとりの特性に合った指導や対応を身近で体験し、実際に行うことで、改めて学ぶことが多かったようでした。



### 受講者の感想

- 現場での子どもたちの様子や子どもの特性を踏まえた指導方法、言葉のかけ方を工夫していたことを学んだ。忙しい中、受講者のためにスケジュールを組んでくださり、たくさんの貴重な経験をすることができ、参加して良かったと思った。

- 合計で7回、柏ヶ谷小学校で実践力向上講座を行った。その中では主に支援級の児童について。普段行っているボランティアとは違い、自分がわかっても相手に伝わらなかった事が多く、大変な面もあった。しかし、どう伝えたら理解してもらえるのかを考え、伝わった時、とても嬉しく、伝えることの大切さを学ぶことができた。この経験から様々な視点に立って相手を考えるということ学ぶことができ、良かったと思う。

## 藤沢市立藤ヶ岡中学校

藤ヶ岡中学校では、11月27日（火）に教員業務体験が実施され、2名の受講者が参加しました。

受講者のそれぞれの専門教科である理科と数学の授業を参観し、学習支援も行いました。数学の問題練習では生徒に寄り添い、つまづいた場面ではそっと言葉をかけて考え方のヒントを伝えるなど学習支援に努める姿が見られました。また、理科のグループでの実験活動では、取組の様子を観察しながら生徒に言葉をかけたり、活動の支援を行ったりする様子が見られました。同じ教科指導であっても生徒への関わり方や説明の仕方、生徒のつぶやき・発言の受け止め方などが教員によって異なることや、学年（発達段階）によって指導の在り方が異なることを実感できたのではないのでしょうか。

受講者は、生徒への発問や考えさせる問いかけなどについて、メモ帳にこまめに記録し、特に気になった点については赤字でメモするなど意欲的に取り組んでいました。授業の終了後には、教科担任に指導方法について質問し、自分の疑問を解決しようとする積極的な姿勢が見られました。



## 受講者の感想

- 今回の授業見学で学んだことは、先生一人ひとりで授業の展開が全く違うことです。自分も大学で模擬授業の経験があり、自分のやり方というものができてしまっていますが、今回の授業見学を通して多くの授業を見学すると自分に足りないものや、マネしたい部分を多く発見することができました。自分の模擬授業をしっかりと見直し、今日の授業を良い意味で盗みたいと思いました。来年の教育実習に活かしていきたいと思います。

## 県立百合丘高等学校

百合丘高等学校では、10月11日(木)と11月1日(木)に授業参観が実施され、10月11日(木)に2名の受講者が参加しました。

受講者の専門教科である数学と英語の授業にそれぞれ3時間ずつ参加しました。真剣にメモを取りながら2時間目まで参観しました。3時間目は、数学の授業では担当教諭の指示を受けて生徒の中に入り、机間を巡って生徒からの質問を受け、丁寧に答えていました。英語の授業ではコミュニケーション英語Ⅰのグループ活動に欠席した生徒の代わりに参加しました。実際に授業に参加することで、教員や生徒の気持ちになって、授業を体感することができたのではないのでしょうか。

また、校長先生や教頭先生による受講者に対する励ましの講話もあり、充実した時間を過ごせたようでした。



### 受講者の感想

- 授業をクラスに合ったものに変えないといけないと思いました。生徒に問う授業が今は主流だと思いました。このような授業を行うためには、生徒一人ひとりの個性をつかまなければならないと思いました。
- 1、2、3年生の英語の授業は、先生によって、学年によって、時間によって、先生のやり方はもちろん、生徒の態度も全く異なっていた。そういった違いを「どのように工夫」するかをこれからもっと具体的に考えて、実践できるようにしたい。

## 県立伊勢原養護学校

伊勢原養護学校では、1月22日(火)に授業参観、研究授業参加が実施され、1名の受講者が参加しました。

当日は公開授業研究会で、2つの授業を参観した後、学校説明や研究協議が行われました。最初の授業は、中学部の集団活動でした。音楽や体育で取り組んだ内容を合わせた活動で、友だちと協力したり活動を楽しんだりすることが、より一層できるよう授業構成が工夫されていました。次の授業は、防災学習と清掃活動という2つの活動で、訓練音で机の下に隠れ、鳴り終わったらヘルメットを装着して廊下に整列したり、椅子の足の汚れや窓枠を清掃したりしていました。多数の参観者が周囲で見学している環境にも生徒は混乱することなく、落ち着いて意欲的に活動していました。

地域の小学校・中学校の教員のほかに、近隣の高校の管理職や教員も参加している中、真摯な姿勢で参観している受講者の姿が印象的でした。



## 受講者の感想

- 公開授業のテーマは「生徒の社会性を育む」でした。先生方からの支援は最小限に、生徒同士の活動が多く設定されていました。同じ單元の中でも、生徒の変容に応じて、支援の程度を変えていくことが大切だと学びました。協議では、先生方の授業を見る際の視点を知ることができ、勉強になりました。

## 中教育事務所

中教育事務所では、9月7日（金）に模擬授業体験が実施され、9名の受講者が参加しました。

指導主事による模範授業は小学校第1学年国語で『『じゃんけんやさん』をひらこう』という内容でした。自分が考えたじゃんけんを説明するという言語活動を通して、「話す・聞く」という力を身に付けさせ、さらに一緒に遊ぶという活動を取り入れることで、児童の意欲を引き出すという授業でした。授業づくりの具体的な知見を得ることができたと思います。

後半は、3グループ（1グループ当たり受講者3名、指導主事等2名）に分かれ、受講者は、「児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にし、指導方法を工夫した授業」をテーマに、作成した指導案を基に15分の模擬授業を実施しました。その後は、グループ内で協議し、指導主事による助言を一人ひとり受けました。受講者は、模擬授業にむけてしっかりと準備しており、指導案作成だけでなく、教具の準備や授業展開の練習等、前向きに取り組んできた様子が見られました。



## 受講者の感想

- 講座を通して私が現時点で出せる力を知ることができ、何を改善していけるのかを感じることができました。様々な立場の方から意見をいただくことで、より多くの改善点が見つかりました。また、指導主事のご指摘も授業者のレベルに応じた的確なアドバイスをいただくことができました。そして、他の受講者の模擬授業を見ることで、生徒の立場から考えることができ、自身の授業を見つめ直すことができました。